

# 鎌倉市民に贈る 鎌倉の音楽家によるコンサート

ソプラノ 浦畑 博美  
ピアノ 坂元 陽子  
          奥村たまき  
ハープ 野畑 潤子  
          杉山 敦子  
トランペット 佐藤 友紀

指揮 古谷誠一  
鎌倉交響楽団



2004年3月20日(土) 14:30開演  
鎌倉芸術館大ホール

主催：鎌倉市芸術文化振興財団  
協力：鎌倉音楽クラブ

10<sup>th</sup> Anniversary  
鎌倉芸術館  
KAMAKURA PERFORMING ARTS CENTER

# Program

ソプラノ 浦畑博美  
ピアノ 坂元陽子

## I. 独唱とピアノ

G. F. ヘンデル /  
Georg Friedrich HÄNDEL

歌劇「セルセ」より 樹木の蔭で

歌劇「エジプトのジューリオ・チェザーレ」より つらい運命に涙はあふれ

F. チレーア /  
Francesco CILÈA

歌劇「アドリアーナ・ルクヴール」より 私は芸術家の下僕

## II. ピアノ独奏

ピアノ 奥村たまき

S. プロコフィエフ /  
Sergey PROCOFIEV

ピアノ・ソナタ 第2番 二短調 op.14

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ

第2楽章 スケルツォ・アレグロ・マルカート

第3楽章 アンダンテ

第4楽章 ヴィヴァーチェ

## III. ハープ2重奏

ハープ 野畑潤子  
ハープ 杉山敦子

J. トーマス /  
John THOMAS

2台のハープの為のグラン・デュオ

J. マーソン /  
John MARSON

ワルツとプロムナード

E. シュエッカー /  
Edmund SCHÜEKER

ワーチェスターの思い出

— 休憩 —

## IV. オーケストラ

鎌倉交響楽団  
指揮 古谷誠一

W.A.モーツァルト /  
Wolfgang Amadeus MOZART

歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲

## V. トランペット協奏曲

トランペット 佐藤友紀  
鎌倉交響楽団  
指揮 古谷誠一

F. J.ハイドン /  
Franz Joseph HAYDN

トランペット協奏曲 変ホ長調

第1楽章 アレグロ

第2楽章 アンダンテ

第3楽章 アレグロ

## プログラムおぼえがき

◆ヘンデル: バッハと同じ年に生まれたヘンデルは、同時代のイタリア古典の作曲家たちのように、オペラを沢山作りましたが、現在上演されることは余りありません。この〈樹木の蔭で〉だけが有名になった「セルセ」もその一つで、ペルシャ王セルセのもつれた恋愛劇ですが、一幕のはじめに“プラタナスの木陰が、どれほど私を癒してくれるか…”と王が歌うのです。その大らかな美しさに魅かれて女声でも歌われることが多く、“オンブラ・マイ・フ”と皆が愛唱するのです。同じヘンデルのオペラ「ジュリアス・シーザー」で、かのクレオパトラが、シーザーと相愛の仲になったが故に弟トロメオ王に因われ、相愛のシーザーを思いながら〈つらい運命に涙はあふれ…〉と歌います。イタリア近現代の作曲家チレアの代表作、オペラ「アドリアーナ・ルクヴルール」で、主役の花形女優アドリアーナが、彼女の美しさを賛える人達に答えて〈私は芸術家(創作の神)の下僕〉に過ぎません…と歌う有名なアリアです。

◆プロコフィエフは、ロシアの伝統を引継ぎながら、ピアノ音楽の新しい時代を作った作曲家と言われますが、その9曲のソナタは、いずれも高い技術を持つピアニストたちの興味と意欲の対象にされています。ソナタの第1番と3番が型破りの単一楽章の曲であったのに比べて、この第2番は4楽章の堂々たる構成を持ち、しかもプロコフィエフの個性、斬新な和声が随所に見られ、誰をも「これこそ20世紀の音楽」と目を瞠らせる内容が溢れています。軽快なリズムの第1主題と歌う第2主題は不協和の変奏や荒々しいフォルテでしばしばかき消される第1楽章、スケルツォと言っても舞曲風というよりも華麗なトッカータ…というに相応しいピアニズムを持つ第2楽章、それに対して第3楽章はむしろロマンティックでしょうか…。第4楽章は、跳躍的な主題がダイナミックに発展したり、1楽章の第2主題が甘く表れたかと思うとすぐヴィヴァーチェの華やかさとなって駆け巡り、現代の音響と感覚を堪能させて力強く終わります。

◆優雅なハーブの奏で…: 19世紀イギリスのハーブの名手ジョン・トーマスは、王立音楽アカデミーの教授をつとめ、ウエールズの伝統的な旋律を使っ

た歌とハーブの作品などありますが、この〈2台のハーブのためのグラン・デュオ〉は優雅な中に華麗なハーブ・デュオを聴かせる佳品。現代イギリスで活躍するハーピスト、ジョン・マーソンの作品〈ワルツとプロムナード〉は、モダン・ミュージックの雰囲気がある楽しい音楽…。〈ワーチェスターの思い出〉の作曲者エドモント・シュエッカーは、19世紀後期から20世紀初頭オーストリー、とくにウィーンで活躍し、後にニューヨークに移り、メトロポリタン歌劇場やボストン交響楽団に席を置いていたこともあり、沢山のソロやエチュードの作品を残しています。

◆モーツァルト: 歌劇〈ドン・ジョヴァンニ〉序曲は初演の前々日に一晚(本当は明け方2時間)で作られた…というので有名です。冒頭の不吉な和音やそれに続く暗澹たる音楽は、ドン・ジョヴァンニに引導を渡しに来た石像の現れる場面で、それでも改心しないジョヴァンニが遂に楽火に包まれるクライマックスを奏でるのです。それから一転して、オペラ全体を表す軽快・多彩な音楽となり、殆ど切れ目なくオペラが始まるのですが、今日はハイドンのトランペットの登場となります。

◆ヨーゼフ・ハイドン: 〈トランペット協奏曲 変ホ長調〉1曲しかないハイドンのトランペット協奏曲は、奏者にとっては名人技の見せ場であり、独奏者の切り札のような曲ですが、聴き手にとっては、胸のすく思いのする、あるいは明日の活力が湧いてくるような人気番組なのです。

第1楽章はオーケストラだけで第2テーマまで奏して一段落をつけてから、朗々とトランペットの登場となります。このメロディーは一度しか吹きませんから聴き逃がさないように…。後は、独奏との掛け合いをオーケストラも楽しくて仕方がないという雰囲気です。第2楽章はシチリアーノ舞曲をのどかに踊りながら、これもソロとトゥッティが交錯して、それなりに盛り上がりを見せますが、何と言っても“ベット”の聴かせどころは終楽章です。ロンド・ソナタ形式などという理屈はどうでもよい…、これでもか…とテーマを吹いてくれますから、ただ、わくわくと一緒に歌って、この素晴らしい午後のひと時の幸せを喜び合いましょう。(高木幸三 記)

## 出演者プロフィール(出演順)



**浦畑博美**(うらはた ひろみ) ソプラノ  
北鎌倉女子学園高等学校音楽科卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。中村浩子、児島百代の各氏に師事。フランス・ボワティエ夏期音楽大学に参加、N. ベルージャに指導を受ける。ソロ活動の他、合唱指導、ヴォイストレーナーなど多方面に活躍。また、コンサートの企画なども数多く手がけている。現在、湘南学院高等学校非常勤講師、百音の会、コンセール“C”、鎌倉音楽クラブ各会員。



**坂元陽子**(さかもと ようこ) ピアノ  
北鎌倉女子学園高等学校音楽科卒業。桐朋学園大学ピアノ科卒業、同大学音楽科伴奏研究員をつとめる。ウィーン国立音楽大学ピアノ科卒業。在学中、ウィーン国立音楽大学マスタークラスの伴奏科、あるいはモーツァルトウム音楽院の伴奏科において、エリック・ウエルバ、ポール・シルハスキの各氏に師事。内藤ゆり子、北村陽子、玉置善己、ポール・バドゥラ・スコダ、ゲオルク・エバート、サラ・マリア・サージェントの各氏に師事。現在、数多くの演奏会に出演し、ソロ活動や音楽アンサンブルピアニストとして活躍中。湘南学院高等学校非常勤講師、鎌倉音楽クラブ会員。



**奥村たまき**(おくむら たまき) ピアノ  
桐朋学園大学、ベルリン芸術大学、オランダ・アムステルダム音楽院卒業。ベルリンにおいてブラームス没後100年フェスティバル、エルヴァンゲン音楽祭、アムステルダム運河フェスティバル、日蘭修交400周年記念祝賀祭などのコンサートに出演する他、オランダ放送響メンバーとの室内楽も行う。第28回イタリア・パロマドーロ国際コンクールでファイナリスト・ディプロマ賞、第10回イブラ・グランドプライズ国際コンクールピアノ部門優秀演奏者賞などを受賞。アムステルダム音楽院ポストグラデュエイトコース修了後、2001年に帰国。2002年鎌倉にてソロリサイタルを開催。現在後進の指導にもあたっている。これまでに、ピアノを故橋爪玲子、関晴子、松岡貞子、エーリッヒ・アンドレアス、ヴィレム・ブロンズの各氏に師事。鎌倉音楽クラブ会員。



**野畑潤子**(のばた じゅんこ) ハープ  
鎌倉女学院卒業、東京芸術大学音楽学部卒業、同専攻科修了。日本フィルハーモニー交響楽団の専属奏者をつとめた後、フリーの奏者として、ソロ、室内楽、オーケストラ、及び現代音楽の演奏グループに参加するなど多くの演奏活動を行う。日本ハープ協会の副会長を経て、現在は理事長をつとめる。また、日本ハープコンクールにおいては運営委員、審査員、審査委員長等で参加している。ヨゼフ・モルナル氏に師事。洗足学園音楽大学講師、鎌倉音楽クラブ会員。



**杉山敦子**(すぎやま あつこ) ハープ  
洗足学園音楽大学を卒業後、ドイツ国立ケルン音楽大学に留学、在学中全ドイツ学生コンクールハープ部門第3位入賞。同大学を首席で卒業後、ケルン市立・オペラハウスオーケストラに在籍。帰国後、リサイタルを東京、横浜で数回開催。ハープを野畑潤子、M. ロールムス、H. シュトルクの各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学ハープ科講師。



**佐藤友紀**(さとう ともり) トランペット  
鎌倉市出身。県立鎌倉高校卒業。東京芸術大学音楽学部卒業。同大学にてモーニング・コンサートで芸大オーケストラと共演。アカンサス音楽賞を受賞、日本管打楽器コンクール1位、日本音楽コンクール2位。卒業時に読売新人演奏会出演。2002年リエクサ国際ライモ・サルマス・トランペットコンクール(フィンランド)ファイナリスト。小沢征爾音楽塾オペラプロジェクト1に参加。パシフィック・ミュージック・フェスティバル参加。これまでに、岡田治久、杉本峯大、福田善亮、E. コード、P. ティボー、M. ヘフスの各氏に師事。現在シエナ・ウインド・オーケストラ楽団員、東京アトラクティブ・プラス主宰。ハンブルク国立音楽大学留学中。



**古谷 誠一**(こたに せいいち) 指揮  
東京大学文学部卒業。在学中から桐朋学園オーケストラ研究生(指揮専攻)として、指揮を秋山和慶、堤俊作、尾高忠明の各氏に、作曲・ピアノを故矢代秋雄、三善晃、末吉保雄の各氏に師事。二期会中四国支部のモーツァルト「魔笛」公演を指揮して指揮活動を始める。以降、長門美保歌劇団、日本バレエ協会、日生劇場での東宝ミュージカルなど活動の場を広げている。オペラからミュージカル、大掛かりな舞台作品まで、手がけた作品はあらゆるジャンルにわたっている。また、7年間にわたって日本オペレッタ協会の定期公演を手がけ、その間「ルクセンブルグ伯爵」「マリツア伯爵夫人」「白馬亭」「微笑みの国」など、日本で演奏されることの少なかったオペレッタを数多く指揮して高い評価を得る。東京シティフィル、新日フィル、九州交響楽団、関西フィル、N響団友オケ、名古屋フィルなど数多くのオーケストラを指揮。1997年10月にはカーネギーホールにてオペラ「日本の夜明け」(演奏会形式)をセントルークスオーケストラ・ニューヨークと協演し、絶賛される。2003年10月には韓国初のオペラハウスにおいて、オープニングフェスティバル「マダム・バタフライ」を指揮して大成功をおさめる。昭和音楽大学、愛知県立芸術大学各講師を経て、現在、名古屋芸術大学教授、セントラル愛知交響楽団正指揮者。



**鎌倉交響楽団** (管弦楽)  
市民のアマチュア管弦楽団として昭和38年に発足。現在団員は120名を超え、春秋の定期演奏会、3月のファミリーコンサート、幼稚園協会による園児のための演奏会、年2回の団員による室内楽演奏会、毎年の「鎌倉の第九演奏会」など、常任指揮者の古谷誠一氏のもとに幅広く鎌倉の音楽文化のリード役として活動が続いている。